

## まずは事典で調べてみる

図書館では辞書・事典類をまとめてレファレンス・ブックといい、十進分類では 0 類（総記）に分類されています。沖縄についてなにか調べたいときも、まず、沖縄関連の事典で知りたいことがらをいくつか引いてみるのが、調べものの出発点です。

ここでは沖縄について調べる際に役立つ主な参考図書を紹介します。

### 1. 総合事典

『沖縄大百科事典』（上・中・下・別巻）沖縄大百科事典刊行事務局編、沖縄タイムス社、1983 年

【K03/O52/1~4】

項目数 17,000 件をほこる沖縄関連の総合事典の筆頭。沖縄について調べるなら、まずこの事典にあたってみるとよい。別巻は総索引のほか、沖縄・奄美総合歴史年表、沖縄・奄美関係主要文献目録などの資料も充実している。ただし、出版年が 1983 年であるため、この時点での情報であることに留意が必要。

『沖縄コンパクト辞典』琉球新報社、2003 年

【K03/R98】

歴史・地理・民俗・政治・経済・社会・文化・スポーツなどの分野から 3,400 余の項目を収録。インターネット上でも公開している (<https://ryukyushimpo.jp/pages/page-174.html>)

『現代沖縄事典』琉球新報社編集局編、琉球新報社、1992 年

【K03/R98】

日本復帰からの 20 年間に限定した事典。用語編・年表・市町村編・資料編・統計編からなる。

『沖縄文化史辞典』真栄田義見ほか編、東京堂出版、1972 年

【K03/Ma26】

民俗・文化についての概説と用語解説。附録は官制表・生産暦・年中行事一覧表・「まつり」一覧表・指定文化財一覧表・地名総鑑・文献目録・文化史年表を収録。

『沖縄事始め・世相史事典』山城善三・佐久田繁編、月刊沖縄社、1983 年

【K03/Y44】

明治元（1868）年～昭和 57（1982）年のできごとや人々の暮らしをまとめてある。「運動会の始め」「エレベーターの始め」など、沖縄における「はじめて」を引くことができる。読みものとしても楽しめる。

### 2. テーマ別事典

それぞれの主題によって分類されています

#### 〈歴史〉

『琉球史辞典』中山盛茂編著、文教図書、1969 年

【K200.3/N45】

琉球史関連の 1,800 項目を収録。附録に琉球史年表、部類別索引あり。

『沖縄縣史 別巻 沖縄近代史事典』沖縄県教育委員会、1977 年

【K201/O52】

『沖縄縣史』の別巻として編まれた事典。附録に「歴代県知事一覧」「近代沖縄学校一覧」等が収録される。

『沖縄戦を知る事典』吉浜忍ほか編、吉川弘文館、2019 年

【K206/O52/[1]】

「集団自決」や「秘密戦」など沖縄戦のキーワード 67 項目を解説した事典。地域別の概要を知りたい方は続編↓も参考になる。

『沖縄戦を知る事典 続』古賀徳子ほか編、吉川弘文館、2024 年

【K206/O52/2】

『戦後沖縄生活史事典 1945-1972』川平成雄ほか編、吉川弘文館、2022 年 【K207/Se64】  
政治・経済・社会・事件・娯楽等の人々の社会生活とかかわる 111 項目が立項される。項目と関連のあるトピックで 102 本のコラムも収録され、各項をより深く知ることができる。

〈地名〉基本となる 2 冊を紹介します。より詳しく☞ 調べ案内 No.8 「沖縄県の地名を調べる」

『角川日本地名大辞典 47 沖縄県』角川書店、1986 年 【K29/Ka14】  
「総説」「地名編」「地誌編」「資料編」から構成される。地名編は五十音順、地誌編は市町村別に編集されている。資料編も小字一覧、間切市町村沿革表、「おもろさうし」所出地名地図などを附録も充実。  
『沖縄県の地名』（日本歴史地名大系；48）平凡社、2002 年 【K29/O52】  
市町村別に記載され、巻末索引で引くことができる。

〈人名〉家系・家譜に関することは☞ 調べ案内 No.2 「家譜を探す」

歴史上の人物や近現代（1980 年ごろまで）の人物なら、まずは『沖縄大百科事典』（既出【K03/O52/1～4】）にあたる。近代の人物なら、事典ではないが、『沖縄県人事録』（沖縄県人事録編纂所、1906）【AK28/N51】、『沖縄県人事録』（沖縄朝日新聞社、1937 年）【K28/TA43】などの人事録が参考になる。

〈民俗〉

『沖縄民俗辞典』渡辺欣雄ほか編、吉川弘文館、2008 年 【K38/O52】  
沖縄の民俗に関する 950 項目を収録。附録に「沖縄・奄美地方年中行事」「沖縄・奄美地方指定無形民俗文化財」などのリストがある。

〈ことば〉より詳しく☞ 調べ案内 No.7 「沖縄の方言を調べる」

『沖縄語辞典』国立国語研究所編、大蔵省印刷局、1963 年 【K80/Ko49】  
首里の方言を収録。見出し語は方言音の音声表記アルファベット順で配列されるが、索引は五十音順に整理しているため、方言・標準語どちらからも引くことができる。

『沖縄古語大辞典』沖縄古語大辞典編集委員会編、角川書店、1995 年 【K80/O52】  
「おもろさうし」「混効験集」などの文献をはじめ、神歌や琉歌などから沖縄の古語語彙を抽出。

『琉球語辞典』半田一郎編著、大学書林、1999 年 【K80/H29】  
約 12,000 語を収録。「固有名詞の共通語・現地語索引」など 6 件の附録あり。

『沖縄語辞典』内間直仁、野原三義編著、研究社、2006 年 【K80/U18】  
那覇市の方言約 8,000 語を収録。見出し語はカタカナ表記。「古典文学引用一覧」「和沖索引」あり。

大琉球語辞典 (<https://ryukyu-lang.lab.u-ryukyu.ac.jp/>) 【インターネット上で公開】

『沖縄今帰仁方言辞典』『沖縄語辞典』『奄美方言分類辞典』『与論方言辞典』『沖縄伊江島方言辞典』『宮古伊良部方言辞典』を音源とともに収録したデータベース。各辞書の横断検索、琉→和・和→琉での検索が可能。